

鳥取のアートをもっと身近に! もっと楽しく!



アルテ

鳥取県文化振興財団 情報誌 vol.314

2021.SPRING

特集

モルゴア・クアルテット
待望の鳥取公演

美しく、熱く! 魂の弦楽四重奏

Morgaua Quartet

モルゴア・クアルテット

ピックアップ 公演のみどころ

やのとあがつま(矢野顕子&上妻宏光)

Tour 2021 -Asteroid and Butterfly-

新日本フィルハーモニー交響楽団 米子公演

鳥取の未来のために

弦楽アンサンブルクリニック

FOCUS ON

鳥取市少年少女合唱団



モルゴア・クアルテット 待望の鳥取公演

美しく、熱く! 魂の弦楽四重奏

日本のクラシック界を代表する凄腕4人組と名高い「モルゴア・クアルテット」(以下、モルゴア)。驚くべきは、彼らがロックまでも弾きこなすということ。両極に挑戦することで、誰にも真似のできないサウンドを創り出している。



公演情報は裏表紙をチェック!

【プログレッシブ・ロックとは】

1960年代後半のイギリスに登場したロックのジャンルの1つ。様式にとられない実験的な試みとクラシック音楽のような芸術性と構成美を強く重視し、高度な演奏技術による演奏、変拍子の多用など、従来のロックとは一線を画した音楽。モルゴア・クアルテットの3rdアルバム「トリビュートロジー」は、プログレッシブ・ロックの巨匠、エマーソン・レイク&パーマーの「トリロジー」をトリビュートして企画されたもので、本公演で演奏される「タルカス」が収録されている。

卓越した演奏技術と多彩な表現力

シヨスタコーヴィチを極める

モルゴアの結成は、1992年のこと。旧ソビエト連邦時代の作曲家・シヨスタコーヴィチが遺した15の弦楽四重奏曲を演奏するために集まったという、極めて珍しいスタイルでスタートを切った。

リーダーの荒井英治さんは、「シヨスタコーヴィチの音楽は、政府の統制が厳しい時代背景もあってか、暗くて重い雰囲気のものが多い。時に野蛮なほど激しく、また時には意味ありげに静かで美しく、非常にドラマティック。それは彼の内面の告白のようで、理解するのは難しかった」と、当時を振り返る。どんな意味があり、いかに表現すべきか、4人で延々と議論することもあったという。

所属楽団の活動の合間を縫って練習を重ね、9年目には全15曲を完奏するという偉業を達成した。その後も年越しでの全曲演奏会も含め三度完奏し、さらにはベートーヴェンやバルトークの弦楽四重奏曲も網羅。高質な演奏はも

ちろんのこと、チャレンジを続ける姿がなんとも格好いい。

比類なきプログレへの挑戦

もう一つ、彼らの人気を不動のものにしているのは、「プログレッシブ・ロック」(以下、プログレ)の演奏だ。元々は「裏メニユー」だったが、噂が噂を呼び、今ではシヨスタコーヴィチと並ぶ二枚看板となった。熱狂的なプログレファンだという荒井さんが編曲を担当。エレキギターやシンセサイザー特有の音、荒れ狂う変拍子、クラシックやジャズなどさまざまなモチーフを融合させた多彩な表現、それらが盛り込まれたプログレの編曲は困難を極めるという。

「大事なのは音楽に乗ること。そこはもう演奏者の入れ込み方と熱演しかない」と荒井さん。目を見張るほどの速弾き、絶妙な弓さばき。美しい旋律と、猛獣が唸るような音。それは、クラシックで培われた高い技術があるからこそ成せる演奏だ。「シヨスタコーヴィチをやってきたことは大

春の訪れをモルゴアで!

初めての鳥取公演はこの4月。曲目(予定)は、ハイドン・弦楽四重奏曲第67番ニ長調「ひばり」、シヨスタコーヴィチ・弦楽四重奏曲第4番ニ長調、そしてプログレからは、エマーソン・レイク&パーマー(以下、ELP)の「タルカス」だ。選曲のテーマは「春」。「コロナ禍を経験し、やはり音楽は生きていくのになくしてはならない、と再認識しました。春の喜びとともに、音楽の力を鳥取の皆さんに伝えたい」と意気込む。

ELPを代表する名曲「タルカス」も、生命の躍動感にあふれた曲だとか。タルカスとは、アルマジロと戦車が合体したような想像上の怪物で、その戦いの物語が7つの組曲で構成されている。冒頭の変拍子、一転して叙情的な旋律になるなど変化に富む。この曲が、モルゴアによる魂の演奏でどう表されるのか、今から楽しみでならない。

Morgaua Quartet

モルゴア・クアルテット



- と ぎ わ て つ お 戸 澤 哲 夫 / 第2ヴァイオリン
東京シティ・フィルハーモニック
管弦楽団コンサートマスター
- お の ふ じ 小 野 富 士 / ヴィオラ
元NHK交響楽団
次席ヴィオラ奏者
- あ ら い え い じ 荒 井 英 治 / 第1ヴァイオリン
元東京フィルハーモニー交響楽団
ソロ・コンサートマスター
- ふ じ も り り ょ う い ち 藤 森 亮 一 / チェロ
NHK交響楽団
首席チェロ奏者



ベートーヴェンの名曲を堪能

Information

開催日 | 2021年7月16日(金)
会場 | 米子市公会堂 大ホール
時間 | 開場 18:15 開演 19:00
料金 | 全席指定(税込)
 S席・一般 7,000円 S席・U18 2,000円
 A席・一般 5,000円 A席・U18 1,500円
一般発売 | 4月17日(土)
友の会先行 | 4月9日(金)~11日(日)
 ※詳細は財団ホームページをご覧ください。
主催 | (公財)鳥取県文化振興財団
共催 | (一財)米子市文化財団
お問合せ | アルテプラザ(財団西部事務所)
 TEL.0859-38-5127



常に新しい音楽性を探求する新日本フィルハーモニー交響楽団。2020年はベートーヴェン生誕250年に合わせ、多くのコンサートを企画していたものの、中止が相次ぐ。そんな中、「パプリカ」「さんぽ」などの親しみやすいヒット曲のリモート演奏会が話題となった。

21年は仕切り直して、ベートーヴェンの誰もが知る名曲をお届けする。TVドラマ・映画『のだめカンタービレ』の劇中で流れ、話題となった「交響曲第7番」のほか、ピアノとオーケストラが絶妙に“対話”し、威風堂々の「皇帝」を披露。また、日本のクラシック界を牽引する指揮者・大友直人と、ピアノ界の第一人者として存在感を増す清水和音の共演が、演奏をさらに盛り上げる。

濃密で贅沢なひとときを堪能できる、春の一夜となりそうだ。

新日本フィルハーモニー交響楽団 米子公演



©K.MIURA

“昔からある新しい音楽”紡ぐ



TOTTORI BANK 鳥取銀行 プレゼンツ

やのとあがつま(矢野顕子 & 上妻宏光) Tour 2021 -Asteroid and Butterfly-

シンガーソングライター／ピアニストの矢野顕子と三味線演奏家・上妻宏光によるコラボユニット「やのとあがつま」は、ニューヨークでの共演を機に産声をあげた。日本の生活文化から生まれ、古くから歌い継がれてきた「民謡」に、独自の解釈でアレンジを加えることで、“新たなJAPANESE MUSIC”にアップグレードする。

演奏曲は日本最古と言われる富山県民謡「こきりこ節」、熊本民謡「おてもやん」や、会場の観客と一緒に歌えるようにと作曲されたポップな楽曲「いけるかも」。さらに、津軽三味線の古典楽曲「津軽じょんから節」など、幅広く楽しめる。

この春いよいよツアーが再始動。ジャンルや国境を超えて活躍してきた2人だからこそ紡げる“昔からある新しい音楽”をお見逃しなく。

Information

開催日 | 2021年5月8日(土)
会場 | 米子市公会堂 大ホール
時間 | 開場 14:15 開演 15:00
料金 | 全席指定(税込)
 S席: 7,000円
 A席: 5,500円
 U18: 2,000円(S・A共通)
 ※未就学児入場不可
一般発売 | 好評発売中
主催 | (公財)鳥取県文化振興財団
 BSS山陰放送
共催 | (一財)米子市文化財団
お問合せ | アルテプラザ(財団西部事務所)
 TEL.0859-38-5127



大きな可能性を感じました

たけだ しおり
竹田 詩織さん

鳥取市出身。2010年東京藝術大学音楽学部器楽科ヴァイオリン専攻卒業。同年第1回鳥取県クラシックアーティスト・オーディション最優秀賞。2012年東京交響楽団入団。とっとりチェンバーオーケストラのメンバーでもあり、地元での演奏活動はもちろん、次世代育成にも意欲的に携わる。



私たちTCOのメンバーは、鳥取県内の弦楽を盛り上げたいという財団の熱い思いに賛同し、関連するさまざまな事業に参加しています。中でもこのクリニックは、プロの演奏家が複数人入って子どもたちと一緒に演奏するというので、とても素晴らしい企画だと思います。

今回は、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスの各パートにTCOの7名が入りました。プロが奏する音の響き方、ボリューム感、音を出すタイミング、フレーズのまとめ方、運指や弓の動かし方など細かな演奏技術をすぐそばで感じられることは、「新しい気付き」につながります。そこに一言アドバイスが加わるだけで、音が変わり、そんな様子を目の当たりにして、手応えを感じました。

子どもたちへの声かけは、ポジティブな気持ちになれる言葉を選ぶよう心がけています。それは、弦楽を好きになってほしいから。特に習い始めたばかりの小学生は、難しい技術の習得より、伸び伸びと弾いてもらうことが一番ですから。上級レベルになると、どのように弾けばこの曲がもっとステキになるか、その方法論を教えるだけで音に勢いが出ます。また高校生たちは、部活で基礎練習をしっかりと積んでいることもあり、プロと一緒に演奏することでの効果が一番表れたのではないのでしょうか。

子どもたちの可能性にワクワクしました。「回数や時間を増やしたい」、「合同コンサートを催したら楽しく演奏できるかも」と、次の機会に試したいことがどんどん浮かんできています。

プロの音・技を間近で体感でき、上達のヒントが得られました

倉吉東高校オーケストラ部は、弦楽の6人全員が高校から始めた初心者。だから、プロの方から直接指導を受けられたこの日は、とてもいい経験となりました。間近で聴くプロの演奏は、自分とは音の響きが全く違っていてビックリ。ピブラートもすぐうまくて、その技をすぐそばで見られたのは勉強になりました。また、弓は弧を描くようにひくことや、低音から高音へ一気に飛ぶときの運指のコツも教えてもらったので、3月に開催予定の定期演奏会で生かしたいと思っています。



村本 美月さん
鳥取県立倉吉東高等学校 2年
オーケストラ部 部長
ヴァイオリン

難しいピッツィカートもなんのその「アンサンブルって楽しい！」

お兄ちゃんがヴァイオリンを弾いていて、かっこいいと思ったので、僕も2年ぐらい前から習い始めました。弦楽合奏するのは今日が初めて。緊張したけど、みんなで弾く楽しさのほうが大きかったです。今日演奏した「春の小川」は、最後のほうにピッツィカート※があります。ちょっと難しいけど、家での練習どおりにできました。もっと速く弾けるようになりたいし、高音も上手に弾けるように、これからも頑張りたいです！



久保田 佑平さん
鳥取市立若葉台小学校 1年
ヴァイオリン

参加者の声
How did you enjoy it?

※ピッツィカート=弓で弾く弦楽器の弦を指で弾いて音を出す演奏技法。

育てる

鳥取の未来を創る次世代を“育成”



若手クラシックアーティスト育成プロジェクト
アーティスト育成プログラム
弦楽アンサンブルクリニック

昨年度から始まった「弦楽アンサンブルクリニック」は、クラシック音楽への興味を深め、鳥取県の未来を担うアーティストを育てていくことを目的に、弦楽器演奏に親しむ若年層の意欲や技術を伸ばす。講師は鳥取県出身・在住のプロ奏者で構成する「とっとりチェンバーオーケストラ」(以下、TCO)のメンバーが交代で務めています。昨年12月20日に第2回目

のクリニックを、倉吉未来中心で開催しました。前半は小学生から高校生を対象とした「ジュニアの部」、後半は弦楽の部活動がある3つの高校(鳥西、倉東、米東)による合同オーケストラを対象とした「高校生の部」の2部構成で実施。講師陣はTCOより7名の演奏家が参加し、受講生の中に交じって指導曲を一緒に合奏する形で進めていきました。最初は自信なさそうに演奏する受講生でしたが、プロの演奏を間近で見聞きし、具体的なアドバイスを

受けることで、みるみる音に変化が表れ、驚かされました。全員の音や呼吸を合わせなければいけないアンサンブルの難しさ、面白さを実際に感じてもらえるのもクリニックの良さであると感じます。また、ジュニアを含めた県内の弦楽演奏者が一堂に会することで交流が深まり、良い連携が生まれているように思います。今後も定期的開催し、子どもたちにもっと音楽を楽しんでほしいと考えています。

プロに学び、みるみる上達



人と人とのつながりを大切に
展開している、若者たちに向けた
財団の取り組みを紹介します。



プロのお手本や丁寧なアドバイスにより、まるで真綿が水を吸うように子どもたちは上達していく。(ジュニアの部)

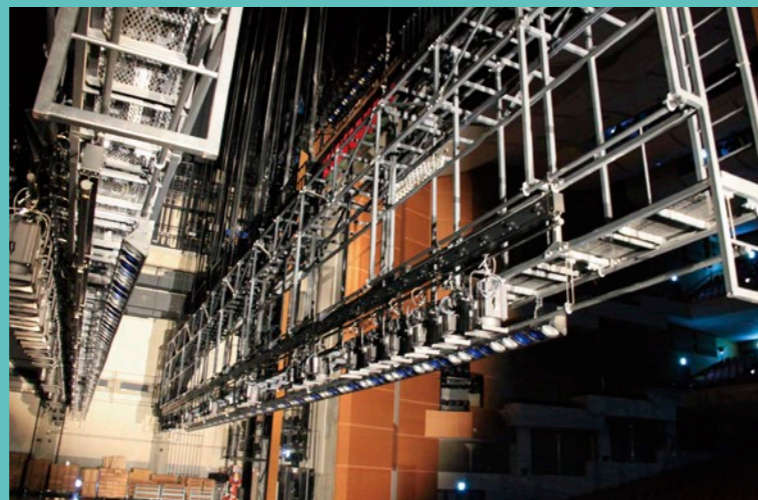


「プロと一緒に」「3校共同の合奏」という状況が程よい緊張感を生み、集中力を高める高校生たち。(高校生の部)

かげの立役者たち ～劇場裏のウラ～

財団技術管理部のスタッフが劇場の裏側をご紹介！
舞台や施設を見えないところで支えている、特殊な
構造や設備機器などをお見せします！

『ライトブリッジ』篇



ライトブリッジ。吊り橋状になっていることからこの名称がついた。

舞台上部に隠れた吊り橋

ステージを照らす照明器具は、どのように取り付けられているかご存じでしょうか。普段意識されることはほとんどないと思いますが、舞台の上部には「ライトブリッジ」と呼ばれる舞台機構が吊り下げられており、たくさんの照明器具が取り付けられています。単に器具が吊れるだけでなく、人がその上に乗って光を調整することもできます。今回は、このライトブリッジをどのように使用しているかご紹介いたします。



仮の調整を行うスタッフ

まずライトブリッジを手が届く高さまで下ろし、照明ボタンに照明機材を取り付けます。落下することがないように強く固定し、さらにワイヤーをかけておくのが大事なポイントです。また、頭上に上げたときの照射具合を想定し、仮で光の大きさや角度の調整もしておきます。調整が終わったら、ライトブリッジを定位の高さまで再び上げます。

次はヘルメットとハーネス(※)を付けて、ライトブリッジの上に乗ります。実際に舞台を照らしている光を見ながら、照射位置・範囲などを本番の状態に合わせる細かい調節を行うため、これを「シュート作業」といいます。

照明担当であっても、この高さの足場を歩くのはいまだにゾクッとします。照明器具に触れるには、姿勢を低くして手を伸ばさなければ届かないので、外に乗り出しすぎないように注意しながら1台ずつ順番に光の調整を行っています。



足場は高さ約10m。慎重に作業を進める

照明器具は、頭上に吊られているという特性上、危険な一面もありますが、照明演出を行う上では決して欠くことのできない設備です。安心して舞台を使っていただけるよう、これからも安全面に細心の注意を払って運用していきたいと思っております。

梨花ホールにお越しの際には、舞台の上部で人知れず活躍するライトブリッジの存在をふと思い出してみてください。

※墜落事故を防止するための器具。



照射位置などを調節するシュート作業

鳥取市少年少女合唱団

歌を通して子どもたちの心を豊かに育て、地域に文化芸術の花を咲かせ続けている合唱団。
長年にわたる活動が高く評価され、昨年「第45回鳥取市文化賞」を受賞した。
清らかな水のように澄んだその歌声は、聴く者の気持ちをも素直にしてくれる。



顔・体の筋肉をほぐすところから始まり、3～4時間かけてじっくり練習。「となりのトトロ」の主題歌「さんぽ」や昨年流行した「パブリカ」は、子どもたちが大好きな曲目。振り付きで歌えば自然と笑顔になる。



第39回定期演奏会(2019年/とりぎん文化会館 梨花ホール)

お話を伺った人



指揮・指導

尾崎 直美さん

仲間と歌える喜びをのせて

昭和55年に創設され、昨年40周年を迎えました。幼児から高校生までの男女約40人が集い、合唱曲をはじめ、童謡唱歌やアニメソング、流行の歌謡曲など幅広い分野の楽曲を歌っています。20年前からは定期演奏会にミュージカルも取り入れており、芝居や踊りなどの表現が加わることで歌声にもいい影響が出ています。

練習日は毎週土曜日。子どもたちは年齢も学校も違うので、体を動かすゲームなどを織り交ぜ、お互いのことを知り、心をひらくことができるようにしています。美しいハーモニーをつくり出すに

私は小学3年生の時から本格的に合唱を始めました。パートはアルト。ソプラノにつられないように歌うのは難しいけど、自分の音程がしっかりとれて、ハーモニーがきれいに響いたときはうれしくなります。自分が主役になったつもりで歌う、胸を開いて息を吸うなど、尾崎先生の指導を意識しながら練習しています。高校生になったので、これからは小・中学生たちのお手本になれるようにしたいと思い、頑張っています！

林 春那さん

鳥取県立鳥取東高等学校 1年
入団 8年目

は、団員同士の信頼関係がとても大事になるからです。高校生や中学生は、年下の団員たちの面倒をよく見てくれます。それぞれが個性を發揮しながら、お互いを認め合い、みんなでいいものを出し合うことができます。そんな成長の場となっているのも、この合唱団の良いところですね。

季節のコンサートや福祉施設訪問、イベント出演、コンクール出場等、毎年さまざまな舞台で合唱を披露しています。曲数が多くなると練習が大変ですが、お客様の前で歌うことは子どもたちにとって何よりの喜びとなっています。



新型コロナウイルス感染症拡大防止対策と取り組みについて

(公財)鳥取県文化振興財団では、感染拡大防止のため、様々な対策と取り組みを行っています。



消毒設備(館内各所)



利用受付カウンター

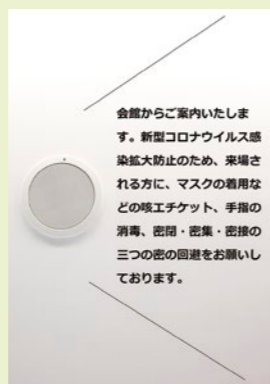


チケット販売カウンター

アクリル板の設置



感染予防対策に関する館内掲示(館内各所)



換気等を促す館内アナウンス



ドアノブ・手すり等の消毒

- スタッフのマスク着用
- 適切な空調管理 など

取り組みの詳細につきましては、各館のホームページをご覧ください。

○とりぎん文化会館



○倉吉未来中心



新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に係る機器等の活用について



(公財)鳥取県文化振興財団では、競輪の補助事業「2020年度消費者にとって「安全・安心」な社会をつくる活動等(緊急支援)補助事業」を受けて、表面温度計サーモグラフィーハンディカメラを4台整備し、財団の自主事業で活用させていただきました。これからも皆様に安心してご鑑賞いただける環境を整えてまいります。

詳細は当財団ホームページをご覧ください。



音楽っていいな! キッズコンサート
9月13日
とりぎん文化会館 展示室入口



MUSIC ENCOUNTER
~アーティストたちの協演~
10月25日
とりぎん文化会館 梨花ホール楽屋

編集後記

2020年はコロナ禍でたくさんの事業が中止となりました。2021年は県民の皆様にも素晴らしい文化芸術をお届けすべく、新型コロナウイルス感染症の予防対策を徹底し、準備を進めています。お楽しみに!(S)



地域の文化というとき

地域の文化というとき、先ず顔が浮かぶのが鳥取の「たくみ割烹店」の店主だった浅沼喜実さんだ。日本海新聞の復刊記念出版文化賞をといた打ち合わせを、米子支社長の影井亮さんとたくみ割烹店でやり、浅沼さんを紹介してもらった。浅沼さんは「富が一部に偏在し文化が行き詰まった時、昔そのままに戻ることには出来ないが、自覚した人々は再生の手掛かり

を地域文化に求める」と語られていた。

今一人は、一九八七年のブックインとつとりの日本の出版文化展・愛称「本の国体」の会場テーマを、倉吉の福井千秋さん達とデザインした須崎俊雄さん。昨年惜しまれて他界された須崎さんによって、「知球はいま・」の大きなサインの下に青い地球が浮かんだ。ひとりの人間の、小さな地域に根ざした生活は同時に、地球と

PROFILE

ながい のぶかず
永井 伸和さん

特定非営利活動法人本の学校 顧問

1942年鳥取県生まれ、児童文庫のネットワーク「本の会」、ジャーナリスト影井亮氏と「鳥取県出版文化賞」の提唱、演奏家の活動を支えた「音の会」、1987年ブックインとつとりの日本の出版文化展「本の国体」と地方出版文化功労賞の事務局、現在NPO本の学校顧問。

の森ちづ図書館」が多くの住民・町民の多年の取り組みで実現し話題となった。これからの地域文化の創造を予感させる嬉しい知らせだった。

いがかげがない惑星の住人であるという視点で地球環境を様々な角度から見つめ直し、自然・いのち・社会を包みこむ地域の文化的土壌を問われていた。コロナ禍でも様々な文化芸術活動が、参加者の熱意で試みられている今、持続可能な地域社会をどうつくるかが市民ひとりひとりの課題となっている。経済文化かどちらかに分かつことの出来ない人間のこれからです。智頭町に十二月二十九日、「ちえ

メンバーに聞きました!



和也さん

始めたきっかけを教えてください

和室で座ってご挨拶をするというような礼儀作法を自然と身に付けられるよう、4歳の時、ご近所の先生のお稽古場へ母に連れて行かれたようです。



和也さん

印象に残った出来事は?

小学1年生の頃、「船弁慶」のお話を大人の方々に交じっていただき、呪文のような言葉で平知盛の怨霊を鎮める場面の迫力、言葉のリズムに魅了されたことが印象に残っています。



和也さん

この活動をして、学んだこと、身に付いたことはありますか?

ただ舞うだけではなく、その舞の中の物語や背景について教わり、昔の人たちの考えや感性を知ることができたと感じます。



和也さん

読者に伝えたいことは何ですか?

演目の物語や背景を知るなど視野を広げることで、舞や謡いをより深く楽しめると思います。



青少年
古典・郷土芸能
グループ紹介
vol.4

【鳥取松響会】 能を継承すべく普及活動

鳥取松響会は、能の継承を目的とし、能の魅力を感じてもらうための公演やワークショップなどの普及活動を行っています。会の起源は、1940年頃、当時の鳥取県知事が「本県には観世流(能の流派の一つ)を習う機会が無い」と、京都から河村北星師を招いたことが始まりです。それ以降活動を続けてきたものの、会員の減少にともない2012年に解散。その後、縁があり林宗一郎師を招き、2013年に再出発したのが現在の鳥取松響会です。

【代表者】会長 近藤光さん
【設立】2013年12月11日 【メンバー数】12人
【話を聞いたメンバー】
岸本和也さん(18才) / 活動歴13年9か月



イベント
主催

モルゴア・クアルテット コンサート



日本の名だたるオーケストラで活躍する
凄腕奏者4人によるスーパークアルテット!

日時 | 4月25日(日) 開演 14:00

会場 | ハワイアロハホール

チケット | 全席自由(税込)※未就学児入場不可
一般 4,000円 U22 2,000円
U15 1,000円

演奏 | ハイドン「弦楽四重奏曲 第67番『ひばり』」
ショスタコーヴィチ「弦楽四重奏曲第4番」
エマーソン・レイク&パーマー「タルカス」



公演情報



お問合せ | 倉吉未来中心 TEL.0858-23-5391

イベント
主催

NHK鳥取放送局開局85年記念 NHK交響楽団演奏会 鳥取公演

梨花ホールで堪能するN響の甘美な音色

日時 | 8月28日(土) 開演 16:00

会場 | とりぎん文化会館 梨花ホール

詳細は決まり次第、
鳥取県文化振興財団ホームページ等に
公開します。



財団ホームページ



お問合せ | とりぎん文化会館 TEL.0857-21-8707

お知らせ アルテプラザ(財団西部事務所)から移転のお知らせ

アルテプラザは2021年4月より米子天満屋4階から下記に移転します。

【移転先】米子駅前ショッピングセンター 4階(イオン米子駅前店4階)

移転に伴い、下記期間は営業を休止させていただきます。

また、営業時間・休業日も次のとおり変更となります。

【営業休止】3月21日(日)~4月5日(月)

【営業開始】4月6日(火)

【営業時間】9:00~17:00

【休業日】毎週日曜日・月曜日

※事務所移転に関する詳細は、ホームページをご覧ください。



4月6日(火)以降のお問い合わせ

米子市末広町311番地
米子駅前ショッピングセンター 4階(イオン米子駅前店4階)
0859-38-5127(9:00~17:00)
休業日:毎週日曜日・月曜日

お知らせ

友の会がリニューアルします。 4月1日(木)から入会受付開始!

当財団友の会では、事業を通して鳥取県の文化芸術の発展、次世代の育成等にご支援いただき、財団の活動を支援くださる会員を募集しています。問い合わせは友の会事務局(とりぎん文化会館内)0857-21-8707まで。

ロイヤル会員

年会費 12,000円

有効期限 1年

- 特典内容
- チケット優先販売(予約)
 - 財団が指定する財団主催公演への特別招待(年1回)
 - チケット購入後のキャンセルサービス(年2回)
 - アーティストとの交流
 - レストラン等協力店でのご優待
 - イベント案内サービスの配信
 - 催し物案内の送付(毎月)

クローバー会員

年会費 1,500円(1,000円*)

有効期限 1年

- 特典内容
- チケット優先販売(予約)
 - レストラン等協力店でのご優待
 - イベント案内サービスの配信
 - 催し物案内の送付(毎月)
- *催し物案内の送付がご不要な方は、年会費1,000円でご入会いただけます。催し物情報はメールマガジンで毎月配信します。

ジュニア会員

年会費 無料

有効期限 小学校卒業月末まで

- 特典内容
- ダイレクトメールの送付(年4回)
 - スタンプラリー特典
- コンサートやワークショップに参加してスタンプを集めよう!スタンプがたまったら、公演の無料鑑賞券をプレゼント!

対象:小学校1~6年生

※チケットはとりぎん文化会館、倉吉未来中心、アルテプラザ、WEBチケットとっとり(鳥取県文化振興財団インターネット・チケットサービス)等でご購入いただけます。
※車椅子席・介添席・託児をご希望の方は、各イベントのお問合せ先へご連絡ください。
※アンダーチケット(U22、U18等)で入場の際は、公演当日身分証明書等の提示が必要です。
※イベント内容は変更になる場合があります。

掲載のイベントは新型コロナウイルス感染症の影響により、中止・延期になる場合がございます。最新情報はお問合せ先へご連絡ください。



最新情報は、鳥取県文化振興財団 公式Facebookページでチェック!



鳥取県文化振興財団 FB

とりぎん文化会館

(県民文化会館/財団事務局)

〒680-0017 鳥取市尚徳町101-5

TEL.0857-21-8707 FAX.0857-21-8705

✉ bunka@torikenmin.jp



【休館日】

年末年始および毎月第2・4・5月曜日
(祝日の場合は、その翌平日)

http://www.torikenmin.jp/kenbun/



倉吉未来中心

〒682-0816 倉吉市駄経寺町212-5

TEL.0858-23-5391 FAX.0858-47-0255

✉ mirai@miraichushin.jp



【休館日】

年末年始および毎月第1・3・5月曜日
(祝日の場合は、その翌平日)

http://www.miraichushin.jp/



アルテプラザ

(財団西部事務所)

〒683-0043 米子市末広町311

米子駅前ショッピングセンター 4階(イオン米子駅前店4階)

TEL.0859-38-5127 FAX.0859-38-5128

✉ seibu@torikenmin.jp

【休業日】

年末年始および毎週日曜日・月曜日

http://www.torikenmin.jp/arteplaza/

